



# 東日本大震災の追悼式開催

手島 岩手県宮城

## 3県知事がメッセージ寄せる 遅れてユーチューブで配信

【本報記者】ブラジル岩手県人会(多田マウロ孝則会長)、福島県人会(上利マサル会長)は11日9時30分から「東日本大震災10周年追悼式」を岩手県人会館で行った。当初はユーチューブで生配信予定だったが、当日に技術的トラブルが発生して配信できなかった。式典の様子を撮影・編集し、午後から実際に動画配信した。



追悼式の様子(左から上利会長、今井会長、多田会長)

式典会場には3県人会が会長や千田順一前岩手県人会会長、大分県人会の伊東信比古会長などが参加。現岩手会長の多田氏

## 誰一人として取り残さない復興

岩手県知事 達増拓也

本日、東日本大震災10周年追悼式がブラジルサンパウロにおいて開催されます。岩手県民を代表して心から御礼申し上げます。東日本大震災津波の発生以降、ブラジル岩手県人会の皆様からお見舞いや激励、義援金の提供など多大なるご支援を頂き、おかげ様でブラジル全体からの御支援にも広がり、今般、このような式典を開催頂きましことと併

多田氏は追悼の言葉として「東日本大震災から10年となる本日、尊い命を失われた方々の御霊に謹んで哀悼の意を表します」と述べ、「当時、ブラジルメディアでも恐ろしい震災の状況が放送されテレビを離れることができませんでした。ブラジル側も一丸となり、総額6億円の義援金を日本赤十字社へ送りました」と振り返る。

せ深く感謝申し上げます。私は、3年前のブラジル岩手県人会創立60周年記念式典の出席をはじめ、これまで3度にわたって御地を訪問して居りますが、この間、日本の皇室や内閣総理大臣、ブラジルの大統領など多くの方々が相互に訪問し合い、二国間の関係の深化やブラジル社会に貢献した日系人の顕彰など、両国の絆は一層深まってきたと実感しております。

## 世界に誇れる復興を目指して

福島県知事 内堀雅雄

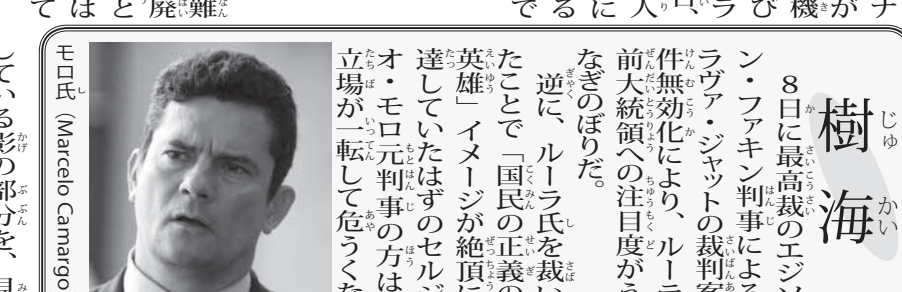
本日ここに東日本大震災10年の追悼式が執り行われるに当たり、福島県民を代表して謹んで哀悼の言葉を捧げます。本式典の開催に尽力をいただきました被災者、関係者の皆さまを始め、関係の方々へ深く敬意と感謝の意を表します。

10年が経過いたしました。この間、ブラジルを始め国内外からの温かいご支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めております。改めて心から感謝を申し上げます。昨年には、帰還困難区域の一部で避難指示が解除されたほか、JR常磐線が全線再開し、震災の記録と教訓を伝える東日本大震災原子力災害纪念馆が開館するなど、明るい光が差し込みました。

も進んでおります。「未来に向けた伝承・発信」に取り組んでいくことも大切です。岩手県では、2019年9月に陸前高田市に東日本大震災津波伝承館「いわてTsunami Memorial」を開館し、震災の教訓を後世に伝承するとともに復興の姿を国内外の人々に発信する取り組みを力をつけております。

## 大目小目

総領事のビデオメッセージも含まれている。追悼式の動画は岩手県人会のユーチューブチャンネル(https://www.youtube.com/watch?v=Z8JCXQGuG&ab\_channel=IwatekenJinkaiDoBrasil)で配信。岩手・福島・宮城の3県知事や在聖日本国録画撮影して数時間後に

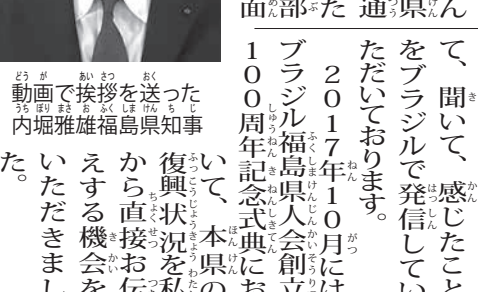


樹海(Shuji Kai)は最高裁の第2小法廷で「モロ氏のラヴァ・ジャットの裁判裁きは政治的偏向があったか」との審議が行われている。モロ氏(Manoel de Oliveira)は最高裁の第2小法廷で「モロ氏のラヴァ・ジャットの裁判裁きは政治的偏向があったか」との審議が行われている。

たつては、最高裁の第2小法廷で「モロ氏のラヴァ・ジャットの裁判裁きは政治的偏向があったか」との審議が行われている。モロ氏(Manoel de Oliveira)は最高裁の第2小法廷で「モロ氏のラヴァ・ジャットの裁判裁きは政治的偏向があったか」との審議が行われている。

ルルーア案件以外のモロ氏最大の疑惑。ルルーア案件以外のモロ氏最大の疑惑。ルルーア案件以外のモロ氏最大の疑惑。

ルルーア案件以外のモロ氏最大の疑惑。ルルーア案件以外のモロ氏最大の疑惑。ルルーア案件以外のモロ氏最大の疑惑。

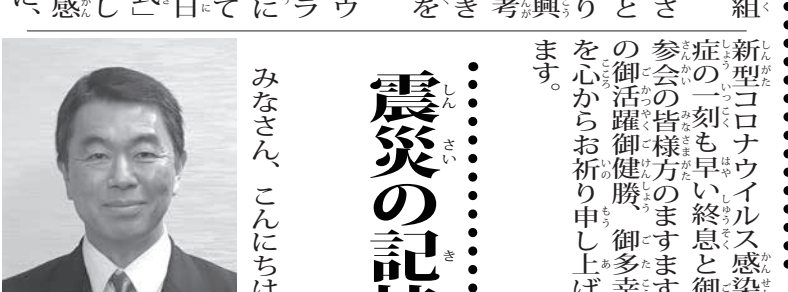


岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。

岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。

岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。

岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。岩手県知事 達増拓也。



宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。

宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。

宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。

宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。宮城県知事 村井嘉浩。

震災の記憶と教訓を後世へ伝承。宮城県知事 村井嘉浩。震災の記憶と教訓を後世へ伝承。宮城県知事 村井嘉浩。

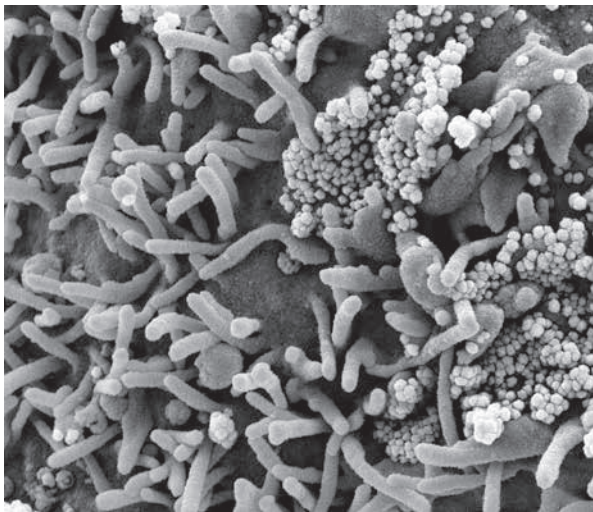
Dr. MONICA Y. MORISHITA. 電気鍼療法、はり、灸、レーザー、磁石による治療、体重減少にも効果的。Biomédica 生物医学。Pós-Graduação em Acupuntura 大学院で針灸学を専攻しました。LOCAL: Rua Thomaz Gonzaga, 95 - M (Iwate-Kenjinkai) Liberdade - São Paulo - SP (perto do metrô Liberdade) CONTATO: (11) 99236-3956 "Recado no WhatsApp" E-mail: monicamorishita@yahoo.com.br



特別寄稿

コロナ禍闘病記

聖市在住 嶺井由規



新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真 (Crédito: NIAID)

まるで操り人形のように

突然、猛烈な勢いで襲ってくるのは夢にも思わなかったし、コロナウイルスの恐ろしさを、十分に思い知らされた。

喉の奥に焼き石が詰っているような感じである。水が欲しいと思つた瞬間に、身体全体が地面に崩れ落ちた。まさに操り人形が使い手から離れ地面に崩れ落ち、骨抜きにばらばらになるような感じである。



救急車で運ばれるコロナ患者 (Foto: Pedro Guerreiro / Ag. Pará)



集中治療室の病床 (Foto: Mateus Pereira/GOVBA)

救急車で長時間ほど走って病院に着き、手続を済ませ、肺の精密検査を受けた。医師から肺の60パーセントが侵されているから入院を告げられた。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

救急車で長時間ほど走って病院に着き、手続を済ませ、肺の精密検査を受けた。医師から肺の60パーセントが侵されているから入院を告げられた。困ったものだ。その時初めてコロナに感染したことを知らされた。

「コロナウイルスとの共生の中で」 さて、医師や看護師さんたちの話をまとめ、自分自身の容体を自分なりに解釈をしてみようとした。コロナワクチンがない中で、沢山の薬を投薬しているのは、今、肺や筋肉を侵しているウイルスの拡大を防ぎ、またその他の器官にウイルスが移行しないように包囲作戦を打っている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。



嶺井由規さん

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。



福島県南相馬市で海に花束を投げ入れる女性(62)。多くの友人や知人が津波の犠牲になった。「まだ海のどこかで眠っている人もいるから、届いてほしい」。海に浮かぶ花を見つめ手を合わせた。「かけがえのない命、10年たった悲しみがなくならない」と話した=11日午前11時51分

亡き人へ、海に花束 「見守って」、古里思う

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。

「逃げる」と叫ぶ人間に 息子の碑銘なぞり誓う母 宮城県名取市 関上地区で東日本大震災の語り部をされている丹野祐子さん(52)は1月1日、津波に奪われた長男公太さん(当時13)の名が刻まれた慰霊碑に手を添えた。関上中1年だった。後悔にさいなまれた自分を救ってくれた多くの人の出で、さまざまな感謝を胸に津波の脅威や命の尊さを伝え続けている。



